

柳井医療センター だより

令和5年 7月

〈発行所〉
国立病院機構
柳井医療センター
〈発行責任者〉
宮地 隆史

院長 宮地 隆史

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が2023年5月8日に感染法上の季節性インフルエンザ感染症と同じ5類に移行しました。濃厚接触者の疫学調査が無くなり感染者の法律に基づく強制的な隔離措置も無くなりました。法的にはすべての医療機関でCOVID-19感染症対応が可能との考えになります。一般住民、医療・介護従事者問わずこれまで以上にマスクの着用を含めて個々の判断での感染対策が重要となり、更に病院や高齢者施設等では組織として独自判断での対応が求められるようになりました。各施設では全体の感染対応方針を決め適切な感染対策を継続しつつ、個人個人では状況・場面にあった対応が判断できるようになることが求められ、COVID-19が再流行し始めた時には感染対策をより厳格なものにするなどメリハリのきいた対応ができるようになる必要があります。

国の感染症に対する施策は令和6年度から新しい医療計画において5疾病6事業として新たに「新興感染症等の感染拡大時における医療」の事業を追加する方針です。また国立感染症研究所と国立国際医療研究センターを統合し米国疾病管理予防センター（CDC）の日本版である「国立健康危機管理研究機構」を新たに設立する予定とのことです。また近隣広島では経済産業省が公募した「ワクチン生産体制強化のためのバイオ医薬品製造拠点等整備事業」に広島大学が提案した「広島大学ワクチン・医薬品製造拠点整備」が採択され広島大学霞キャンパス内に「広島大学ワクチン・医薬品製造拠点」が新築される予定です。

今後も感染症に留意しつつも地域医療を進めていく必要があります。当院ではCOVID19感染症蔓延により中止していた市民公開講座を復活させ2023年10月に柳井市でCOVID-19感染症、認知症、その他の神経疾患等について理解を深めるための講演会を行う予定です。一般住民のみでなく医療・看護・介護関係者にも御参加頂きより良い地域医療連携に繋がりたいと思います。

引き続きご支援・ご協力宜しくお願いいたします。



理念

- 一 良質の医療を提供します
- 一 素晴らしい療養環境を提供します
- 一 患者満足度の向上に努めます
- 一 職員満足度の向上に努めます

医師コラム

待望の経口薬が登場

脳神経内科 医師
井門 和貴

はじめまして。脳神経内科として令和5年4月から柳井医療センターに赴任してきました。医師の井門と申します。医師コラムを担当させていただいたので、最近脳神経内科で新しく発売された薬を紹介しようと思います。

ラジカット経口薬……筋萎縮性側索硬化症（Amyotrophic Lateral Sclerosis：ALS）を適応症として4月17日に発売された薬です。以前から静脈注射薬は発売されており、酸化ストレスを軽減し、運動神経の障害を防ぐことでALSの進行を抑制する効果があるとされています。今回発売された内用懸濁液により、注射による痛みや投与のための通院、入院などの患者さんの負担がかなり軽減されることが予想されます。この薬を心待ちにされていた患者様も多く、当院でも採用となっています。当院では入院、外来ともにALSの患者さんは多く、今更かもしれませんが、病気の概要を以下に記載しておきます。今後ともよろしくお願いします。

筋萎縮性側索硬化症（ALS）

手足・のど・舌の筋肉や呼吸に必要な筋肉がだんだんやせて力がなくなっていく原因不明の病気です。しかし、筋肉そのものの病気ではなく、筋肉を動かし、かつ運動をつかさどる神経（運動ニューロン）が主に障害をうけます。その結果、脳から「手足を動かせ」という命令が伝わらなくなることにより、力が弱くなり、筋肉がやせていきます。発症のしかたや経過には大きな個人差があることから、個々の患者さんに柔軟に応じた対応が必要な病気です。



第5回 PDナース・メディカル スタッフ研修会 開催

柳井医療センター研修事務局



令和5年4月22日(土) 広島国際会議場にて「第5回 PD ナース・メディカルスタッフ研修会」が開催されました。当院院長宮地がオーガナイザーを務め、わたくしたち柳井医療センター職員はスタッフとして参加しました。会場は広島市平和公園近くにあり、5月にG7広島サミットがおこなわれる影響で、街全体が緊張感を漂わせていました。

本研修会は、パーキンソン病患者さんの診療・介護・看護に関わる看護師、各種コメディカルの方々を対象として 2022 年より開催されています。終了後に行われる確認テストに合格すると、パーキンソン病・運動障害疾患学会(MD S J)より「パーキンソン病療養指導士」として5年間認定されます。

本研修は毎回人気で、定員 150 名の予約が当日埋まってしまうほどです。また、全国より申込みがあり、今回も北海道や九州より参加した方がおられました。

講師は、医師・看護師・理学療法士・管理栄養士・医療ソーシャルワーカーという多方面な分野のかたが務め、幅広い内容となりました。参加者からは自分とは別の職種について理解が深まったという意見を多数いただきました。

今後も、このような研修や勉強会を開催して、より良い医療を提供できるように努めてまいります。



今後、このような研修や勉強会を開催して、より良い医療を提供できるように努めてまいります。

今後も、このような研修や勉強会を開催して、より良い医療を提供できるように努めてまいります。



地域医療連携室コーナー

地域医療連携室室長よりご挨拶



副院長 今村 栄次

皆さまには平素よりお世話になっており、大変感謝しております。2023年4月より前任の宮地隆史前副院長（現院長）より地域医療連携室室長を引き継ぎました今村栄次と申します。医療機関の先生方、メディカルスタッフの方々、介護をされる方やケアマネージャーなど多職種の方々にお礼申し上げます。

当院は、柳井医療圏（柳井市、周防大島町、上関町、田布施町、平生町）の方を中心に診療しております。2020年の国勢調査によると柳井医療圏における高齢化率（65歳以上）は42.70%（全国平均28.00%）、75歳以上の後期高齢者人口の割合24.06%（14.74%）と、高齢者の占める割合が非常に高い地域です。高齢者には神経疾患を患っている方も多いですが、当院には脳神経内科専門医が5名（うち指導医3名）在籍し、昨年度までよりも1名増加しています。山口県下でも屈指の専門医数で、山口県東部の脳神経内科の中核病院としてこれまで以上に貢献できればと考えております。

入院中の患者さんは神経難病を中心とした脳神経内科疾患の患者さんが最も多いですが、その中で人工呼吸器管理を必要としている方も多く入院されています。重症心身障害児（者）、人工透析を必要とする方、その他長期入院療養を要する方、外科手術を受けられる方、自宅療養あるいは施設入所中だったが短期間でも入院治療が必要な方なども入院されています。広範な地域の医療機関とも連携し、当院での診療希望のある方は可能な限りこれまで以上に早期に受け入れたいと存じます。高齢者は併存疾患が多く、当院は総合病院ではないため対応困難なこともあります。下記のような多数の科の先生方に診療援助をしていただき、治療にあたっています。腎臓内科、循環器内科、呼吸器内科、肝胆膵消化器科、糖尿病内分泌内科、内視鏡、外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、その他入院患者さんのみですが耳鼻咽喉科、小児科、歯科の先生方にも定期的に診療援助をしていただいております。当院での対応が困難となった場合には他の病院にご迷惑をおかけすることもあります。引き続きよろしくお願い申し上げます。

また外来では、嚥下機能低下があり、食事形態に関しての検討が必要な場合には、適切な食事形態を提案できる嚥下造影検査を日帰りで行えるクリティカルパスを作っております。希望される場合、地域医療連携室でご予約をお願いします。

医療と福祉は両輪で考える必要がありますが、病気療養に伴う社会的、心理的、経済的問題などに関しては、地域医療連携室所属の医療ソーシャルワーカーがご予約にて相談を承っております。

これまで以上にさまざまな方と良好な連携を取り、地域医療に貢献してまいりたいと存じますのでよろしくお願い申し上げます。

認知症疾患医療センターコーナー

網膜組織と認知症に関する新たな研究で アルツハイマー病の兆候が眼に現れることが判明

「目は口ほどにものをいう」ということわざがありますが、目は口以上にその人の感情を表す、言葉で上手く表現できなくても、目で相手に気持ちを伝えることも出来るといった意味があります。

見るだけでなく、気持ちをも伝えられる目ですが、この度、網膜組織と認知症に関する新たな研究として、アルツハイマー病の兆候が眼にも表れることが判明したと、神経病理学の専門誌「Acta Neuropathologica」に掲載されました。

この研究は、認知機能の衰えの程度が異なる86人の網膜と脳組織を分析したもので、網膜サンプルと認知症に関するこれまでの研究で過去最大規模であると研究チームは説明。研究では、提供された組織を認知機能が正常なドナーの組織と比較した。

結果として、アルツハイマー病もしくは軽度認知障害のある人の組織では、アルツハイマー病の特徴である「アミロイドβ（脳内で作られるたんぱく質の一種）」が増加していることが確認されたという。また、他の細胞を修復・維持し、脳や網膜からアミロイドβを排除する細胞である「ミクログリア」が、認知機能に問題がある人では約80%減少していることも発見した。

「体に負担の少ない網膜検査やアルツハイマー病のモニタリングのための、信頼性の高いバイオマーカー（病気の進行や薬の効果など、体内の生物学的変化を把握するための指標となる物質）につながる可能性がある」と結論付けている。

引用：認知症が「眼」でわかる？新たな研究結果や眼と脳の関係を専門家が解説（ウィメンズヘルス）
Yahoo!ニュース（2023.6.6）より

認知症を伴う神経変性疾患では、眼球の動きが制限される場合があり、当院認知症疾患医療センターの各先生方が初診患者さんに眼球運動の検査をされます。網膜を検査することでアルツハイマー病の早期鑑別法の一つとなり、認知症精査に要する患者負担の軽減につながればと思います。

～柳井医療センター市民公開講座開催～

コロナ禍のため中止しておりました市民公開講座を4年ぶりに開催します。

日時 令和5年 **10月29日(日)**
13:00～(予定)

場所 **アクティブ柳井** (柳井市柳井 3718-16)

※詳細は後日HP等でご紹介します。

病院の統計

一般病床204床、療養介護病床76床				
年 月	当院平均 患者数(人)			紹介患者数(人)
	入 院		外 来	
	一 般	療養介護		
R5.5	188.2	75.1	60.1	85
(R5年度計)	185.6	75.0	61.3	148

【紹介率】 単位：％

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計平均
R 4	86.7	90.9	79.6	79.4	87.0	88.1	79.6	90.2	83.1	89.5	84.5	86.3	85.1
R 5	88.8	79.8											83.6

【病床利用率】 ※一般病床のみ 単位：％

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計平均
R 4	95.1	93.0	95.3	95.9	95.5	93.9	92.8	96.9	95.1	92.3	93.7	91.8	94.2
R 5	89.6	92.3											91.0

外 来 診 療 担 当 表

		月	火	水	木	金	備 考
内 科		—	まつもと 信夫 のぶお 信夫	—	まつもと 信夫 のぶお 信夫	まつもと 信夫 のぶお 信夫	要 予 約
脳神経内科	初 診	いまむら 今村・宮地 みやち 宮地	ふくば 福場 ひろまさ 浩正	にしかわ 西川 智和 ともかず ともかず	やまさき 山崎 雅美 まさみ 井門 和貴	いもん 井門 和貴 かずき 井門 和貴	要 予 約
	再 診	にしかわ 西川 智和 ともかず ともかず	いもん 井門 和貴 かずき 井門 和貴	みやち 宮地 隆史 たかふみ 隆史	みやち 宮地 隆史 たかふみ 隆史	ふくば 福場 浩正 ひろまさ 浩正	
	再 診	ふくば 福場 浩正 ひろまさ 浩正	—	いまむら 今村 栄次 えいじ 今村 栄次	にしかわ 西川 智和 ともかず ともかず	やまさき 山崎 雅美 まさみ 井門 和貴	
外 科	初 診	たどころ 田所 剛志 たけし 田所 剛志	たけもと 竹本 将彦 まさひこ 将彦	すみもと 住元 了 りょう 了	まつおか 松岡 功治 こうじ 功治	まつもと 松本 富夫 とみお 富夫	火・木曜日 午後手術日
	初 診	なんば 難波 洋介 ようすけ 洋介	なんば 難波 洋介 ようすけ 洋介	—	すみもと 住元 了 りょう 了	—	
	再 診	たけもと 竹本 将彦 まさひこ 将彦	まつもと 松本 富夫 とみお 富夫	—	たけもと 竹本 将彦 まさひこ 将彦	まつおか 松岡 功治 こうじ 功治	
	再 診	—	—	—	—	たどころ 田所 剛志 たけし 田所 剛志	
腎 臓 内 科					たかはし 高橋 輝 あきら 輝		
整 形 外 科				たなか 田中 晶康 てるやす 晶康	かわばた 川端 紳悟 しんご 紳悟		
循 環 器 内 科		こばやし 小林 佑輔 ゆうすけ 佑輔		おくし 小栗 直人 なおと 直人			
呼 吸 器 内 科			かわもと 川本 数真 かずま 数真			いそやま 磯山 正子 しょうこ 正子	
肝・胆・脾・消化器科		つげ 柘植 雅貴 まさたか 雅貴					
糖 尿 病・内分泌内科						おおの 大野 晴也 はるや 晴也	
内 視 鏡		まつもと 松本 信夫 のぶお 信夫		まつもと 松本 信夫 のぶお 信夫		第1・3週 まつおか 松岡 功治 こうじ 功治	要 予 約
		まつおか 松岡 功治 こうじ 功治		まつおか 松岡 功治 こうじ 功治		第2・4週 はまだ 濱田 拓郎 たくろう 拓郎	
皮 膚 科			(隔週) まつばら 松原 大樹 たいき 大樹 やなぎだ 柳田のぞみ				
泌 尿 器 科		いわた 岩根 亨輔 きょうすけ 亨輔					午後のみ

は広島大学病院医師

令和5年7月1日現在

腹部救急診療

24時間365日体制で診療しています。

対象患者
激しい腹痛、心窩部痛、
側腹部痛、腰痛、肛門会陰部痛、
鼠径部痛、下血症例



救急担当医は次のようになります。(※時間外の体制)

	月	火	水	木	金	土	日
担当医	難波	松岡	松本(富)	竹本	当番外科医	当番外科医	当番外科医

※消化器外科医が病院内に24時間365日常駐しています。

CT・MRIの検査予約を受付ています

当院では、CT及びMRIの検査予約を行っています。
下記の連絡先に予約を申し込んでください。放射線専門医
による読影結果はFAX及び郵送にてお届け致します。撮影
画像はCD-Rで患者様にお渡し又は郵送致します。
(至急依頼の場合の検査報告は検査後2時間ほどで出ますの
でFAX後、郵送致します。)

CT・MRIの予約受付先

国立病院機構柳井医療センター放射線科受付
担当者 山本(やまもと)
電話:0820-27-0211 内線538または229

※なお、FAXでの申し込み及びその他の診療予約については地域医療
連携室へ申し込んでください

